



週報



所沢西ロータリークラブ

R I 第 2 5 7 0 地 区 第 3 グ ル ー プ

会 長 鈴木真澄 ■ 会長エレクト 内田 学
幹 事 堀江 大
クラブ管理運営委員長 高橋和男

例会場 〒359-1127 所沢市星の宮1-3-5 ベルヴィザ グラン TEL 04-2923-4122
事務局 〒359-1143 所沢市宮本町2-22-25 角田ビル3F TEL 04-2926-1666
例会日 毎週火曜日 (PM12:30~13:30) FAX 04-2926-5151
E-mail nishirc@deam.ocn.ne.jp <http://www.tokorozawa-nishirc.net/>

四つのテスト 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

1. 点鐘…会長 2. 斉唱…ロータリーソング 3. 来賓紹介 4. 会長、幹事報告 5. 委員会報告

第 1364 例会 2014・9・9

卓 話	例会当番	記念祝福
9/9 ガバナー公式訪問	宮岡 實	
9/16 例会振替 親睦旅行		
9/23 例会取止 定款 6-1-C		
9/30 「三富農業の歴史と 現在」 加園 一成様	室伏 秀樹	

■出席報告	
月 日	8/26
会員数	36
出席者	29
出席率	80%
前回修正	83%

会長の時間

鈴木 真澄

本日は澤浦さまには大変お忙しい中、当クラブの卓話をお引き受け頂きありがとうございます。どうぞ宜しくお願い致します。

地区からは会長の時間はなるべくロータリーについて勉強会し、ロータリーの話をするようにとのお話がありました。私よりロータリーについての知識が豊富な大先輩ばかりなので今日は「世界文化遺産に登録された群馬県の富岡製糸場」について、ある雑誌に載っていたのと、ネットで調べたのを少し掻い摘んでお話したいと思います。

我が国の生糸が国際的に注目されるきっかけになったのは、徳川幕府が安政6年(1859)に函館、横浜、長崎等を開港したことにより始まったようです。

当時フランスのアルスという小さな町で発生した蚕の微粒子病が瞬く間に欧州全体に広まり、養蚕業が破滅的な打撃を受けてしまい、その結果生糸の需給バランスが大きくくずれてしまい、その買手市場として微粒子病に侵されていないわが国の生糸(きいと)や

蚕種(さんしゅ)に注目が集まり、輸出が急増し、明治元年から二年にかけて、わが国の生糸と蚕種が急騰したとのことです。

この原因をさぐるべくイギリスの調査団が派遣され、埼玉、群馬、長野地方を実施調査し、高騰の原因を調べた時に、この一行の中にフランスの生糸貿易商社に勤務していた「ポール・ブリュ」という人がと加わっていて、調査報結果を報告書にまとめ、その中で今後の日本の歩むべき生糸生産の方向性を明治3年に明治政府に強く提言したとのことです。

その内容は

- ① 速やかに器機製糸場を設立すべきである。
- ② 外国人を指導者として招くべきである。
- ③ 設立場所は群馬県か長野県が最適地である。

これを受けて敵地を富岡に定めて工場を建設したのが現在の富岡製糸場だそうです。

およそ一年5ヵ月の突貫工事で完成させた建造物はフランス人による設計図と日本人大工の建築技術により、屋根は日本の瓦をのせた和洋折衷の大規模な木骨瓦造りという特殊な構造で、明治五年(1872)

に創業を開始し、その後富岡製糸場を模範とした製糸場が全国各地に設立されて、これによってわが国は良質で大量の生糸（きいと）生産体制が整っていたようです。

明治26年（1893）に官営から民営へということで、三井家に払い下げましたが、経営が思わしくなく（その間紆余教説あり）その後筆頭株主であった「片倉工業」に合併され、それ以降、戦中、戦後を通じて経営を続けたようです。

官営期の最高の生産高、明治21年には工女の述べ人数約10万人対し、昭和49年には2万6000人の従業員がいて、一人当たりの生産比率は約85倍となり、自動機械の効率性の素晴らしさを物語っていましたが、しかし創業から115年の歳月を経て昭和62年に戦前、戦中及び戦後の、苦難を耐えた片倉工業は富岡製紙場の創業を停止したとのことです。

しかし片倉工業の社長は「国の宝ともいえる富岡製糸場は一企業の私すべきものではない。これをわが社の手によって保存管理する」と明言して。

以後、まったく収益のない製糸場に本社社員を派遣して現在まで維持管理してきたので、今回世界遺産登録にこぎつけることが出来たといふことだそうです。

企業の出来る社会貢献というと従業員を雇用すること事態がすでに社会貢献ではあります、また法人税等を支払う事もそうですが、これは当然のように思われていますが、りっぱな社会貢献です。

ですが片倉工業の世界遺産に登録され、後世に残り引き継がれていくような社会貢献はなかなかできませんが、出来ることから少しでも社会に貢献できる企業になるよう努力しましょう、と言う今日の会社の朝礼内容を、今はタイムリーな話題と思い、お話をさせて頂きました。

幹事報告

堀江 大

理事会報告

★9月9日（火） 坂本 元彦がバナー様 市内5クラブ
合同がバナー公式訪問 点鐘 16:00

★親睦旅行・・・9月11日（木）～12日（金）
飛騨高山と白川郷方面

★企業見学・・・10月21日（火）横田基地

★プログラム委員会・・・12月まで承認

幹事報告

●国際大会の日程変更・・・来年6月6日から9日

●9月28日（日）RLIセミナー・パート1開催

●R財団月間・卓話者派遣申込書

●親睦ゴルフについて

秋・・・10～11月予定

春・・・5月27日（水）市内合同ゴルフコンパ

●第3G第3回会長幹事会 9月26日（金）

●所沢市内5クラブ第2回会長幹事会 10月8日（水）

●週報・・・新所沢RC

親睦委員会 鈴木 伴忠

9月11日（金）～12日（土）の親睦旅行バス乗車予定表はご参加皆様へご案内 FAX をお送りさせていただきます。

ニコニコボックス

師岡 友次

鈴木 真澄 本日は澤浦様にはお忙しい中、卓話をお引き受けいただき有難うございます。よろしくお願ひ致します。

堀江 大 澤浦様 よろしくお願ひ致します。

内田 学 澤浦様 本日はよろしくお願ひ致します。ぶどう御馳走さまです。

本橋 正夫 大変御世話になります。本日 インターシップ 学生2名御世話になります。よろしくお願ひ致します。



城西大学 経済学部 経済学科

田畑 浩太君

富山 秀人君

太田 一夫 前回、前々回欠席しました。
大館 信夫 前回欠席しました。
鈴木 伴忠 前回欠席しました。
高橋 和男 本日 早退させていただきます。

感謝状



ローター-米山記念奨学会に御寄附いただき、有難うございました。

堀江 大さん ←←鈴木 真澄会長

卓話 「私の農業への取り組み」
グリーンリーフ株式会社
株式会社 野菜くらぶ
代表取締役 澤浦 彰治様

私は昭和39年生まれで今年50歳となりました。私が生まれた地域は戦後開拓された新しい地域です。ここで私の父が離農者の畑を購入して農業を始めたのが私の生まれる前の年でした。

私は地元の農業高校を卒業して一年間畜産試験場で研修したあと、何の迷いもなく農業を継ぎました。当時の我が家は養豚と畑作の経営をしていて労働力も両親と私、そして忙しいときには近所のパートさんをお願いする典型的な家族農家でした。

私が高校を卒業した後、時代はバブルになりそのマネーが蒟蒻原料市場にも流れ、台風による不作も追い打ちをかけ蒟蒻原料が暴騰しました。蒟蒻業界もバブルになり、我が家でも蒟蒻芋の増産に取り組みました。しかし、その後バブルは崩壊し、時代が昭和から平成になる頃、蒟蒻相場は暴落し、農業界は牛肉、オレンジ、米の自由化で揺れました。そんな平成元年末には農産物価格の下落で借金の返済は勿論、肥料代も払えなくなり農業を続けられない

状況になりました。



その時に、自分で栽培した農産物に自分で価格をつけられない農業では自分の将来は無いと感じ、値段を付けられる農業にしたいと、目の前にあった蒟蒻芋を加工して板蒟蒻や白滝にすることに取り組みました。加工方法は蒟蒻農家で加工をしている広島友人のところや先輩農家のところを訪ねて教えてもらい、手探りで母親がやっているようにミキサーで芋をすりつぶす方法で蒟蒻作りが始まりました。

それから、近くのおみやげ屋さんやスーパーを紹介してもらい卸すようになり、消費者グループの集まりに出かけ徐々にお客様が増えてきました。

その中で「蒟蒻を無農薬で栽培できないの？」という問いかけがあり、無農薬栽培（今はJAS基準による有機栽培）での栽培に挑戦しました。一般的には無理といわれていましたが、挑戦したその年の秋に運良く成功して、その方法が蒟蒻芋から大根やレタスなどの野菜に広がっていき、蒟蒻の加工工場や野菜の冷蔵庫を建てたりしながら徐々にお客様に求められる農業に変化してきました。

有機蒟蒻がきっかけで野菜にその取り組みが広がり、農業が好きだが、所得が上がらず農業をあきらめようとしていた2人の仲間と一緒に平成4年に野菜くらぶを立ち上げて、特別栽培農産物の栽培に取り組みようになりました。

それからまもなくヨシケイ埼玉さんとの出会いがあり、現在ではたくさんの野菜や蒟蒻を利用していただき、そのお陰で資源循環+エネルギー循環が出来る農場作りへと取り組みが広がっています。

今週の担当 太田 一夫